

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	阿萬ゼミⅡ	チーム名	とおるちゃん
タイトル	大人向けお菓子市場		
テーマ群	b) 財政・金融, e) 産業・企業		
メンバー	中山俊希 山田透 藤本精 長田大輝 藤本峻平 藤原敦 辻本真吾 西田朱里 久下春奈 齋木佳来 田中清美		
研究計画内容	<p>(研究動機・背景)</p> <p>少子高齢化が問題となっている近年、製菓市場の規模を維持するのは困難であると予想される。現に、全日本菓子協会によると、生産額は 20 年前から 2000 億円ほど縮小しているという。その中で、2005 年度よりほぼ横ばいとなっている流通菓子市場規模だが、一方で同業界を取り囲む環境は年々更に厳しいものとなっている。米国の金融危機に端を発した長引く不況の中で、消費者の節約傾向が鮮明になっており、食品の中でも娯楽的要素の強い菓子業界では、その影響は少なくないと考えられる。また 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、菓子メーカーの被災や原材料・包材メーカーなどサプライヤーの被災の影響で、一部商品に供給不足や新商品の発売延期などが起きた。そのような厳しい環境の中にある製菓業界において、従来とは違った新しい戦略をとる必要があることは、想像に容易い。</p> <p>(研究目的・内容)</p> <p>流通菓子市場は、長年子供をターゲットにした商品を中心に展開されてきた。しかし現状では背景に述べたように、少子高齢化が進展しており、元来の消費者層は減少する一方である。その中で製菓業界の動向を振り返ると、ここ数年で何度も“大人向け”商品が発売されていることに気が付く。この大人向け市場開拓と共に、「スイーツ男子」と呼ばれるような男性向け市場、従来では予想されなかったオフィス需要、更には中国やインドネシアを中心にした海外展開など、新規需要を拡大する動きが強まっている。</p> <p>本研究では、近年における大人の消費者ニーズの動向及びお菓子の特徴に注目し、「健康志向」「高級化」「低価格化」という 3 つの動きを挙げ、その詳細を述べる。少子高齢化により頭打ちとなっている従来市場で限られたパイを取り合うだけでなく、新規市場の開拓が必要不可欠である製菓業界において、企業戦略及び財務状況について実態調査し、現状の把握と課題の抽出を行うことにより、同業界の今後の展望、ひいては今後取るべき戦略が見えてくるのではないかと期待される。</p>		